



# 学校だより

7月号

令和元年7月1日  
横浜市立善部小学校  
校長 小澤 紀子



## ありのままの自分

学校長 小澤 紀子

雨にうたれた紫陽花がきれいに目に映ります。先日の学校公開には多数の方にご来校いただきまして、ありがとうございました。今月は個人面談もございます。いただいたご意見を大事にし、成長の様子や課題などを共有していきたいと考えています。よろしく願いいたします。

さて、今年度も3か月が過ぎ、夏休みが見えてきました。たくさん活動を経て子どもたちは成長してきました。日々の中では通り過ぎていきますが、ふとこんなに成長したのかと感じる時があります。1年生は入学して学校探検・ZSF・遠足・毎日の授業をこなしてきました。「育てているあさがおが咲いた。紫だったよ。」2年生は「なすが大きく育った。おいしそう。」3年生は「かいこがまゆになった。うれしい。」4年生は「ゴーヤを植えた。大きくなるといいな。」5年生は「稲を植えたよ。どろだらけになった。」6年生は「鎌倉遠足大変だった。けど楽しかった。」いろいろな話をしてくれますが、どの顔も本当に生き生きと輝いています。楽しそうです。

しかし、「どうせ僕、私なんて…」「やっても無駄、できっこない。」という言葉聞くことがたまにあります。世界の意識調査では、日本の子どもたちは自尊心が低いと言われていています。自分に自信がなかったり、不安や孤独だと感じたりする子が多いということでしょうか？私たちは子どもたちの自尊心を高めるにはどうしたらいいのだろうかという課題をもち続けています。

自尊心を高める手段として一番有名なのは、「ほめて育てる」ということでしょうか。学校でもたくさんほめて育てていこうと心掛けています。(もちろん、ほめるだけでなく、きちんと叱る、指導するということは大切にしています。)その他には、「認める」「出番をつくる」「活躍の場をつくる」「評価する」「成功体験を積みせる」などに意識して取り組んでいます。実行委員で取り組んだり、皆の前で話したり、先生や友達にその活動を認めてもらったり、褒められたり。ZSFでも遠足でも学習でも、いろいろな活動の場が与えられて子どもたちは生き生きとその活動に取り組んでいます。スマイル班のリーダーの6年生は、下学年の子どもたちに慕われてどんどん自信をつけていきます。「自分ってすごい」と思うことで意欲も高まっています。

そしてもう一つ大事な視点があると、先日学んできました。先述のものは社会的自尊心で、その他に、心の基盤を支える基本的自尊心というものがあるということです。「ありのままの自分がいい。」「自分は自分」「このままでいい」他者との比較でなく、絶対的、無条件なもので、どんな時でも自分を支える感情です。(アナと雪の女王ですね)ありのままの自分(基本的自尊心)とすごい自分(社会的自尊心)がバランスよく育てこそ、めざす子ども像になっていくものだと学びました。では、基本的自尊心はどうやって育てていくのでしょうか？それは共有体験で大きくなる心なのだそうです。一緒に笑ったり、一緒に泣いたりする。一緒に感動する、一緒に喜ぶ。一緒に体験する。感情が動く共有体験を積み重ねていくことで、少しずつ厚みを増していくことを知りました。まるで、薄い和紙を何枚も重ねて丈夫な紙になっていくかのように…。ただ一緒に何かをして心が動く。学校教育の本髄かもしれません。今日の木工教室でもご家族と一緒に本棚や机を嬉しそうに作っていました。これから行われる6年生の片品・日光体験修学旅行では、美しい自然・荘厳な歴史と一緒にふれ、感動してきます。一緒に楽しむことができます。お話レンジャーさんの読み聞かせもそうでしょう。日々の中で心を動かす共有体験はたくさんありました。子どもに寄り添うとはこういうことなのかもしれません。一緒に笑ったり喜んだりする体験が子どもの心を育てていくことを改めて心にとめ、これからも励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。